

第11号 かめい歯科通信



6月4日から10日は「歯と口の健康週間」です。

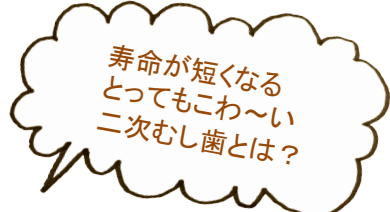
ここ最近、食生活も豊かになり、高齢化の影響などで歯を失う原因がむし歯だけではなく歯周病も大きな割合を占めています。歯周病はむし歯と違い、自覚症状が出にくいので、気がついた時には大変なことになっていることが多いのです。

きちんと歯みがきしているつもりでも症状が進行していることも多く、日頃の正しいケアと歯科検診での予防が重要です。

当院では歯科医院での定期的な検診をオススメいたします。
気になることがありましたら、お気軽におたずねください。



つめもの かぶせもの にご用心！



「一度治療したところはもう安心！」と思いませんか？

むし歯治療で製作する「つめもの」や「かぶせもの」は、とても高い精度で作られています。しかし、人工物であることに変わりはなく、時間の経過などによってどうしても「隙間」ができてしまいます。そしてこの隙間にプラークが入り込み、新たなむし歯ができてしまう。これが「二次むし歯」です。

このように、実は治療をしたところは安心ではなく、むしろ新たなむし歯ができるリスクが高いのです。

歯の寿命がどんどん短くなる「二次むし歯」

むし歯は基本的には歯を削らなければ治すことができません。二次むし歯になると過去に治療で削った歯を、さらに削るわけですから、歯質がどんどん小さくなって弱くなってしまいます。再度治療をしたとしても、歯が折れてしまうというリスクがとても高くなるのです。過去の治療で「神経」をとっている歯は、さらなる注意が必要です。神経がないため二次むし歯になっても痛みを感じづらく、見つかったときには大きく進行していて、歯を抜かなければならないことも珍しくありません。

二次むし歯を防ぐ2つの方法

①境目をしっかり磨く

二次むし歯の原因は隙間にむし歯菌が入ってしまうこと。

ですので、つめものはその周辺を、かぶせものは歯ぐきとの境目を特に入念に磨くようにしましょう。



②定期検診をしっかり受ける！

しかし、隙間に入り込んだプラークを完全に除去するのは難しいものです。そこで大切なのが「定期検診」。ごく初期のむし歯であれば削らずに済むこともありますし、万が一削る場合でも、早期に発見できればそれだけ削る量も少なくて済みます。

ぜひ定期的なご来院をお待ちしております。



とれた「つめもの」を飲み込んでしまったときの対処法

つめものは時間の経過とともに劣化していきます。決して一生使えるものではなく、段差ができたり、接着が弱くなったり二次むし歯ができたりすることで、どうしても外れてしまうことがあります。

飲み込んだかも・・・



では、この外れたつめものをうっかり飲み込んでしまった場合はどうなるのでしょうか？

多くはそのまま排出される



飲み込んだ場合の多くは、そのまま胃に流れ込みます。これを「**誤飲**」といいます。誤飲であれば数日のうちに便と一緒に排出されることがほとんどです。もし体調に不具合があったり、心配な場合は内科でレントゲン撮影をして確認してもらいましょう

こんな場合は注意！



もし飲み込んだときに咳きこんだり、喉にひっかかりを感じた場合は、気管に入ってしまった可能性があります。これを「**誤嚥（ごえん）**」といいます。ただちに内科を受診する必要があります。放っておくとつめものに付着していた細菌によって「**誤嚥性肺炎**」を引き起こす可能性があります。

しっかり治療を！

もうひとつ大切なのは、外れた歯をなるべく早く治療することです。つめものが取れた部分は、歯質の弱い部分がむき出しになっているため、処置が早いとそのまま再着が出来る場合もありますが、放っておくとむし歯になるリスクが高くなってしまいます。また、外れたということは何かしらの問題がある証拠ですので、必ず歯科で診てもらいましょう



お知らせ

*** 6月1日より診療時間を変更いたします ***

平日 8:30～19:00
木曜日 8:30～13:00
土曜日 8:30～16:30
(最終受付は診療時間終了30分前です)
休診日 木曜午後・日・祝



当院のホームページでは随時ブログ更新をしており、お口や健康についての情報を発信しておりますので是非ご覧ください♪
臨時休診日なども掲載しております

名張市
かめい歯科クリニック

検索

